

従来の共同研究

- ・(結果的に)コネクション形成、リクルート、自社の研究者のレベルアップといった目的が多い

海外の共同研究

- ・産学の人材流動(回転ドア)によるもの
- ・データや研究費の授受を伴うプロジェクト 等



今後のセキュリティ分野の大型の共同研究の具体例としてどのようなものが考えられるか？

(類型例)

1. 革新的な知識・アイデアの創出
2. 新たに技術・システムを作る際にセキュリティを同時に作り込むもの
3. 既存の技術・システム(インターネット企業にとって基幹的なもので中長期的な盤石性向上が必要なもの)におけるセキュリティを深化させるもの
4. 企業保有のデータを共有して学理に基づく分析を行うもの
5. 企業にとってのブランディングとなるもの

[なお、表現はこれでよいか、他に類型例はあるか？]

共同研究企業として

どのような企業を念頭に考えられるか？

(類型例)

- ア. インターネット企業
- イ. ITベンダー企業
- ウ. セキュリティベンダー企業
- エ. ユーザ企業(今後DXを進め「社業」をデジタル化・ネット接続する可能性のある企業を含む)

博士課程学生を参画させる強みは何か？

研究戦力として博士課程学生を参画させることで進む大型の共同研究とはどんなものか？

博士課程学生にとっての魅力とは？

今後のセキュリティ分野の大型の共同研究の具体例としてどのようなものが考えられるか？

- 共同研究の案として、情報漏えい等の問題を起こした企業の評判を回復することを狙いとし、生じた問題の解決策に関する共同研究を実施するアイデアが挙げられた。

(関連)

- 日本は海外と比較して金額が小さく、通常の実態としてポスドク等を雇うための原資にはなっておらず、物品が主。
- 企業視点から言って優秀な人材を共同研究に取り込める研究費であれば必ずしも大型でなくても成果を上げやすい。
- 分析を行う対象は必ずしも企業保有データでなくても良いのでは。

共同研究企業として どのような企業を念頭に考えられるか？

- 成功事例としてこうしたアプローチ(米国の大学発ベンチャー Lastlineのデータドリブンアプローチ)が我が国の今後にとっても参考になるのでは。大手企業の買収はデータや技術が目的ではないか。

(関連)

- 具体的テーマが不在のまま、組織と組織の付き合いとしての共同研究を実施するよりは、具体的な教員や研究室を念頭に置いた共同研究、有機的なつながりの方がうまくいく。

博士課程学生を参画させる強みは何か？

- 博士課程学生に求められる経験として、インターンシップ、企業との共同研究、社会人ドクターとの深いディスカッションの実施等があり、大学と企業と一体となって育成を行うのが良い。
- 大学では学術が中心となるが企業では実務も起業家精神も学べる。